

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.7

令和4年9月30日

『生き生き学校2』



《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

## 1学期の集大成

岡本小学校の今年度の校内研究のテーマは「共に学び合う子の育成」です。学級活動を通して、合意形成や他者理解、意思決定の経験を積んでいます。そして、他教科では、学級活動で培った力を土台として、「共に学び合う」探求型の学習をめざしています。

### 9月7日(水) 昼休み、児童代表委員会

1年生～6年生の各学級の代表が一斉に集い、代表委員会が開かれました。テーマは、「体育フェスティバルのなかよし班の種目決め」です。

体育フェスティバルのテーマ「みんなでスマイル～絆を深める岡本小～」を達成するために、「玉入れ・綱引き・大玉転がし」のうちどれがよいかについて、あらかじめ、各学級で話し合いが行われました。

「綱引きは、みんなで力を合わせて綱を引っ張るから、協力できる」

「大玉転がしは、受け渡しの時に協力できるし、息を合わせて玉を押しすることもできる」

それぞれの良さについて比較検討し、最後は参加者みんなが合意の上で、多数決をとることになりました。

さて、何の種目に決まったかは、『プログラム』でご確認ください。



### 9月21日(水) 3校時 3年1組深堀学級

「学級活動」の公開授業が行われました。この時間のテーマは、「そうじ名人になろう」です。

「皆さんは、どうして掃除をするの？」という教師の問いに、子どもたちからは「だって、汚いと勉強に集中できないよ」「汚いままだと、次に使う人が困る」など、経験に基づいたいろいろな考えが出されました。

その後、学校内のそうじ名人である養護教諭やSSS(スクール・サポート・スタッフ)、庁務員さんの声が紹介され、

「みんなが気持ちよく過ごすために」「ほかの

人のことを考えて」掃除をしていることに気づきました。最後に一人ひとりが、そうじ名人をめざすための「目標」を考えました。

果たして、子どもたちどのような行動変容が見られるか、今後は楽しみです。



### 9月21日(水) 5校時 6年1組小宮学級

「総合的な学習の時間」の公開授業が行われました。テーマは「体育フェスティバルの表現の振り付けを考えよう」です。そしてこの時間の子どもたちの問題は「サビの部分はみんなが同じ振りをするかどうか」ということでした。

まず、一人ひとりが自分の考えをもち、根拠を示しながらその考えを伝え合いました。

「歌詞が異なるから、一部は違う振り付けにしたい」

「曲想が同じだし、歌詞を覚えるのが苦手だから、同じ振り付けにしたい」

反対意見を主張することや、考えの異なる意見を冷静に聴き、受けとめることは、大人社会であってもなかなか難しいことですが、6年生の子どもたちはやってのけます。

果たして、体育フェスティバル当日、どんな振り付けができあがるか、楽しみです。



全国の小学校では、新しい学習指導要領が全面実施になり、3年めを迎えています。その間コロナによる休業や、感染対策のために制限されるカリキュラムもありましたが、子どもたちの主体的な学びは継続しています。

より良い自分をめざして自分に合う目標を立てたり、自分たちで体育フェスティバルの種目や表現の振り付けを決めたりするなど、主体的に動く場や仲間と共に学び合う場を整えることで、子どもたちに力をつけていきます。

## くすのき文庫～東雄技研さんからの贈り物～

今年度も、東雄技研さんからたくさんの児童図書を寄贈していただきました。学校司書の狩野さんが中心となり、子どもたちや大人たちの希望を集約し、約10万円分の本を購入させていただきました。

早くも、子どもたちは新しい本を競って読んでいます。

秋の夜長、ぜひいろいろな本に親しみ、世界を広げてほしいと思います。それは、東雄技研の皆様の願いでもあります。

東雄技研さま、子どもたちのためにありがとうございました。



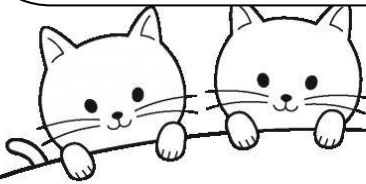
## オンライン校外学習～あしがら環境保全さんからの贈り物～

9月27日(火)、4年生がオンラインによる校外学習を実施しました。昨年度に引き続き、あしがら環境保全さんが講師となり、ご指導していただきました。

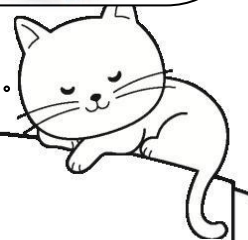
現場と学校をリモートでつなぎ、仕事の様子やリサイクルのしくみについて実況中継をしてくださいました。カメラ目線によって、通常の見学ではなかなか見ることのできないコンテナのしくみを見ることができ、子どもたちから「オー！」という感嘆の声が漏れていました。

また、圧縮されたペットボトルの現物等を見て触る時間も盛り込んでいただき、オンラインの良さを生かしつつ、子どもたちはリアルな学びを体験することができました。

あしがら環境保全の皆さま、貴重な機会をありがとうございました。



わたしのひとりごと



最近、驚いたことをお伝えします。

「ジェンダーギャップ指数」という言葉はご存知でしょうか。毎年、世界経済フォーラム(WEF)が世界各国の男女格差の状況をわかりやすく数値化し、ランキング形式で発表しています。そもそも、「ジェンダーギャップ」とは、「男女格差」のことです。雇用機会や賃金が男女平等ではないなどの、性別の違いによって生じるさまざまな格差を表す言葉です。今年も7月に発表されました。日本は、146か国中116位。「今年もか…」と、その低さに落胆していました。

ところがです！これは、最近知ったことですが、このジェンダーギャップ指数は、「経済」「政治」「教育」「保健」の4分野のスコアの平均値であり、なんと日本は、「教育」のスコアは世界第一位だということです。驚きとともに、「教育」の現場で仕事をしていることに、誇りを感じた瞬間でした。

今は、家庭科や技術科も男女が共に授業を受けていますし、男女によって名簿を分けることもありません。ランドセルの色にしても実にかラフル。子どもたちの呼称も男女問わず、「○○さん」で統一しています。ジェンダーギャップ指数「教育」部門、世界第一位の所以は、こんなところにあるのかなと思いました。

「教育」部門が1位であっても、平均すると116位になってしまうというのも、新たな驚きです。悲しいかな、116位という数値だけが独り歩きをしてしまい、「日本人はジェンダー意識が弱い」と評価されているのが現状です。

もうすぐ一学期が終わります。10月7日、子どもたちは、新しい学年になって初めての「あゆみ」を持ち帰ります。「大変よい」「や」「よい」の○の数に一喜一憂することなく、お子さんの「よさ」や「努力の様子」をぜひ認めてあげてください。子どもの良さは、平均値では測れません。良さに気づかせてあげることが、次への意欲となり、子どもの可能性を限りなく広げることにつながると思います。子どもにも夢を持たせるチャンスです。